

1・20法大包围デモへ!

2015年12月5日
No.345

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

12/3 法大・武田君「暴行」でっち上げ弾圧裁判控訴審

「控訴棄却」の 反動判決弾劾!

1/20法大包围デモへの大結集で反撃しよう!!

12月3日、東京高裁で法大文化連盟委員長・武田雄飛丸君(写真)の「暴行」デッチあげ裁判控訴審判決公判(井上弘通裁判長)が行われ、「控訴棄却」の超反動判決が下されました(一審は「罰金30万円」の反動判決)。満腔の怒りで弾劾します!

本裁判は2014年5月13日に、法大外濠校舎前で情宣活動を行う武田君と文化連盟をビデオで盗撮する法大弾圧職員に対して、武田君が「盗撮をやめろ」と追及したところ「器物損壊」をデッチあげられてその場で不当逮捕され、起訴段階で「暴行」へと切り替えられた100%不正義の弾圧裁判です。

* * * * *

本判決の核心は第一に、戦争情勢下での安倍政権による学生運動圧殺攻撃そのものです。9月安



保国会の先頭で全学連が闘い、10月に全学連4名の「監禁致傷」デッチあげ攻撃を完全粉砕し、10月27日に京大で反戦バリケードストライキを大成功させたことに大打撃を受けた日帝支配階級による「取り戻し」をかけた反動攻撃です。

10~12月、中東と東アジアを焦点に世界的な侵略戦争が始まっています。米仏やロシアなど帝国主義間・大国間の争闘戦が激化しています。それは侵略戦争であると同時に、国内に対しては労働者階級への階級戦争としてあります。フランスではデモ・集会禁止の戒厳令

の中でバス労働者のストライキが闘われ、12月5日(土)には韓国・パククネ政権による「参加者全員逮捕」の恫喝をうち破って民主労総による民衆総決起闘争が闘われようとしています。「戦争阻止・自



齋藤委員長(総括集会にて)

国政府打倒」は今や世界の労働者人民の血叫びであり、治安弾圧をうち破る強固な国際的団結—国際連帯こそが求められています。

こうした情勢下で安倍政権は「テロとの闘い」を旗印に改憲と戦争へ突進しています。その中で下されたのが今回の反動判決であり、第一次安倍政権から闘

い抜かれている10年間の法大闘争はまさに安倍打倒・戦争阻止の闘いの最先端攻防です。反動判決と治安弾圧攻撃を法大闘争の爆発で粉碎しよう。

* * * * *

第二に、警視庁公安部(公安警察)と法大当局=田中優子総長体制の「汚い癒着」を明らかにしたということです。裁判闘争の中で、法大当局が公安警察に対し、日常的・恒常的に門前などで盗撮したビデオ映像を提供していたことが公安警察・安東治の法廷証言で暴露されました。井上裁判長は判決で「公安と連携しているとは認められない」(!)などと主張していますが、法大闘争10年の歴史が示している通り、法大当局が公安警察と心身ともに一体化して学生を弾圧



裁判後の総括集会!(弁護士会館)

していること、戦後の「大学自治」なるものが解体され、大学においては実質的に戦争協力と改憲攻撃が行われていることは明らかです。

また井上裁判長の“当局撮影のビデオ映像を得手勝手に解釈して、その不十分な部分を当局職員の「証言」でつぎはぎし



鈴木達夫弁護士(総括集会にて)

て「武田君の暴行」をでっち上げる”というやり方は断じて許すことはできません!

* * * * *

第三に、やはり勝負は現場でありキャンパスだということです。武田君は裁判後に行った総括集会で「来年、処分撤回闘争と法大闘争を現場で爆発させ、不当判決がいかにデタラメなものか全法大生の前ではっきりさせよう!」とアピールし、さらに齋藤郁真全学連委員長から「公安警察と癒着し、都合のいいように法律を使い、学生を逮捕して勾留することが『おかしいんだ』ということ現場で『常識』にしていこう。そのための法大闘争の爆発=法大学生自治会の建設、京大の反戦ストライキに続くような闘いをつくりあげよう!」と力強く訴えられ、来年1月20日(水)の法大包囲デモと武田君「無期停学」処分撤回裁判控訴審への結集が呼びかけられました。

来年「3月14日」をもって、法大闘争は開始(=ピラマキと立て看板禁止措置に抗議した学生29人の全員逮捕攻撃)からちょうど10年になります。法大闘争のさらなる発展へ、反動判決を徹底弾劾し、大激動の2016年決戦へ進撃しよう!(法大・U)

【当面する行動方針】

●1・20法大包囲デモ ~法大闘争10年! 武田君処分撤回!~

1月20日(水) 12時半に市ヶ谷キャンパス集合→13時にデモ出発(13時半に終了予定)

【呼びかけ】法政大学文化連盟/全学連

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半~ 東京高裁822号法廷にて

